



# 春よこい



新年あけまして  
おめでとうございます

理事長 澤 俊男

今年も仲間達それぞれ  
が自分なりの生活目標

をもって、新しい年を

迎えたことと思います。

新年最初の「はぐるま」

の参加する行事である

川崎市の「新春マラソン

大会」はどうでしたか？

「はぐるま」からの参加者

は、残念ながらいろいろもよ

り少なかつたようですね。

私も今年は参加できませんでした。参加  
した仲間達、感想はどうでしたか？

「やったぞ!!」という満足感、達成感で

気持ちがいっぱいだったと思います。

あの寒風の中を最後まで走り抜いたその気

持ちと体力はすばらしいものだったと思っ

ます。

そしてその強い根性、体力を今年も自分

自身や、「はぐるま」全体の発展・成長のた

めにも是非、みんなの先頭にたつて頑張っ

て下さい。大いに期待しています。

その力を借りながら、今年もまた、私た

ちの「はぐるま」を一段と飛躍する年にし

なければなりません。それは待っていてい

自然にそうなる、というものではありません。

仲間と職員が一体となって互いに

教え合い、助け合い、励まし合いながら追  
求し、行動するものでなければならぬも  
のだと思います。

言うまでもなく、その行動の指針となる

ものは、各作業所にも掲げられている、

私たち「はぐるま」の五つの行動目標です。

それに沿って日夜活動をしています。

## 五つの行動目標

- 一、 いじめない・いじめさせない
- 一、 さほらない・さほらせない
- 一、 あきらめない・あきらめさせない
- 一、 仲間はずれにならない
- 一、 仲間はずれにさせない
- 一、 言いたいことを言う
- 一、 言いたいことを言わせる

No.53号

2011年1月21日

社会福祉法人  
はぐるまの会

広報委員会  
後援会

川崎市多摩区菅馬場1-18-17

Tel 044-946-1308

今年は更に仲間、職員が全員で、五つの

目標を考え、かみしめて行動し、検証していききたいと考えています。そして「はぐるま」の目標である『集団自立』の達成に向けて力強く進んでいかなければなりません。

後援会会員の皆様、地域の皆様、保護者の皆様には、日ごろからのご支援に感謝申し上げますと共に、今度共にご指導のほど、よろしくお願い申し上げます。

## めでたいこと・・・春がきた・・・

(写真・2008年はぐるまマラソンより、

國學院の選手の皆さんと)

新春マラソン大会で仲間達は「走り初め」をしましたが、正月は、テレビの前で箱根駅伝にくぎづけの方も多くいたのでは？前号で、お世話になった國學院の前田監督さんや、選手の皆さんの記事を書きましたが復路の劇的なアンカー戦は見てたえがありましたね!! 約束の駅伝出場に加え、来年のシード権獲得出来ました事、

心よりお祝い申し上げます。

## 研修報告

きょうされん 安居楽業ゼミナールのパネリストとして、仲間自治会代表で4人の仲間が参加しました。

「安居楽業」とは、「居に安んじ、業を楽しむ」世が治まり生活が安定し、みんながそれぞれの仕事に励んでいる状態の事です。このゼミナールは、今回で3回目のまだ新しい取り組みですが、今後全国で展開していく、きょうされんの研修会です。

今回のテーマは「くらし」・・・

障害者権利条約は、「誰とどこで暮らすかを自分で選べる社会」の実現を提起していますが、障害のある人がどこで暮らしても、その人らしく生きられる、暮らしの支援は、どうあればよいのか。現状の暮らしの姿から考える・・・

「はぐるま」ではこのテーマを受けて、仲間の暮らしの姿と、支援の現状を、仲間の声で発表してきました。

全国大会だったので、司会者は関西弁質問者は熊本弁や東北弁などで、全国各地

から参加されている事がわかり、仲間も新鮮だったようです。

特に関西弁にあこがれている、山田さんは、「おもしろい」と言いながら、パネラー席で楽しんでいました。

仲間の発表原稿を紹介いたします。



## はぐるまの始めのころ

石暮 稚弘

私は昭和53年中学を卒業して、パン工場に就職しました。いじめられたり仕事が難しくなったりしていやになってやめました。そして卒業した中学校に行ってもう一度勉強をやり直しました。その時職員に「はぐるまのホームに入るか」と言われて始めは行きたくないと思いました。

何故かと言うと、親元を離れるのが、嫌だったから、行きたくなかったです。いやいや入りました。仲間は2人しかいなくて、生活の仕方何もわからなくて、ホームの仕事もできませんでした。物を切る事・洗う事・ふく事・寝たり起きたりもできませんでした。

そして、食べるものも無かったし、お金も全然無かったので、貧乏でした。すごく苦しくて、困りました。職員の家から食べ物をもらって食べて、ビンの廃品回収をして、お金を稼ぎました。

近くの畑で野菜を作って、自分たちで食べました。

始めは職員が全部やっていたましたが、やがて職員の手も借りず、自分たちでどんどん出来るようになりました。

私の母は年を取って、手や足それに腰が痛くてすごく困っているのです、私が親の世話をする時期が来ました。一緒に住む事も考えています。

## みんなのホーム

石暮 由美

25周年で、ホームのまとめをした時、生活のリズムを崩さない事が大切だという事がわかりました。

たとえば朝起きられないと、遅刻をしてしまう・仕事中に居眠りをしてしまう・食欲がわかない。寝る時間が遅くなると、イライラや便秘になったりします。病気になりやすかったり、頭が痛くなったり、イライラする人もいます。

なので規則正しい生活がいいと思います。はぐるまのホームの生活リズムはどんなことかお話しします。

起床は5時半で、そのあと軽く運動をします(ウォーキング・ジョギング・ランニング)朝のきれいな空気に当たると、目が覚めて、頭もすっきりして、体を動かすとお腹も動き便秘にも良いです。

運動から帰ると、他のホームの仲間と電話点検をします。「起きられたかな?」「今日も頑張ろう」とお互いに電話で確かめ合います。

朝の準備は、自分たちでやります。どんな事をするかと言うと、簡単な調理(卵焼き・スープのあたため)・食器洗い・すすぎ・掃除機かけ・トイレ掃除・テーブルふき・とたくさんの係仕事がありますが、出勤には、まにあいます。忙しいのになんまにあうかと言うと、係をひとりひとり分担して、みんなが上手にできるので、早く終わります。

帰ってからも沢山の係仕事があります。

仲間自治会では、とても大切な目標があります。

「自分たちでできる事は、どんどんやる：出来ない事でも仲間の力をかりて、できるようにしていく」ことです。

ひとりひとり大切なやくわりがあつて、楽しんでやっている仲間もいます。

私は長くホームの生活をして、6年前に結婚をしました。今はホームの仲間や職員  
の力をかりて、生活をしています。  
早く2人で自立していきたいです。

私の楽しみは、土日に地域のいろいろな活動に参加する事です。これからどんどんふやしていきたいと思っています。

## 自立型ホーム

半谷吉弘(当日欠席)

自立型ホームは、職員がいなくてもある程度生活ができる人が暮らす所です。調理や洗濯、買い物、生活費の会計なども、自分たちでやります。

私は22年間はぐるまのホームで暮らしてきました。始めはホームシックにかかつて毎日帰りたいと思っていました。今では自分でできる事が多くなったので、「職員はいなくていい」と思っています。そんな思いを持つている仲間が、最近ふえています。しかしまだ出来ない事があるので、職員に支援してほしい事もあります。

- ① 勧誘のひつこい人が来た時
  - ② 病気の通院・介護
  - ③ 緊急の事故・災害の時
  - ④ 生活費の会計
  - ⑤ 重要書類の書き方
  - ⑥ 食事のバランス
  - ⑦ 地域の人との付き合い
- このような支援を少しずつ減らして、自立していきたいです。

私は今就職活動中です。どうして就職をしたいかと言うと、母に仕送りを増やす事・趣味のプラモデルや、ゲームを買うため。

将来一人暮らしをしたいけど、お金が沢山かかるので、10万円位はかせげる仕事が見たいです。

## ホームから自立して一人暮らし

長原綾

私は、はぐるまのホームに20年位入っていました。今私はホームから独立をして、一人暮らしをして、今年で4年になります。ホームの時と同じように生活をしています。朝は6時に起きて、仲間と電話点検をします。パジャマから洋服に着替えて、布団を畳んで、朝の散歩に行きます。帰ってきて、朝ごはんを食べて、食器洗いをして、出勤します。全部の点検をして、作業所に遅刻をしないように行きます。帰ったら、ヘルパーさんと、夕ご飯作りをします。

ヘルパーさんは、月火木金に来てくれます。水曜日は、自分で自炊をします。

夜の運動は、腹筋50回・ロデオ15分やり  
ます。

私は一人暮らしをするのは夢でした。

ホーム生活でいろいろ学んできたので、

一人でも大丈夫だと思つてやりました。

まだまだ出来ない事は、支援センターや仲

間やヘルパーさんに助けてもらつて、これ

からも一人暮らしを続けて、もっと自分で

できるような事を増やしていきたいです。

次に一人暮らしをしたい仲間がいたら、私

が支援してあげます。

## ホームの課題と私のぞみ

山田 俊輔

(1) 生活するには、お金がかかりすぎます。

私の収入は、障害年金月六万円で、

工賃が一四、〇〇〇円位

合計で七四、〇〇〇円になりますが、

ホーム費は六〇、六〇〇円もかかり

ます。残金一三、四〇〇円がこず

かいとなりますが、携帯代・旅行代

は親から出していただいています。

ほとんどの仲間は、年金だけでは生

活が苦しいです。

(2) ホームは古いアパートを借りてい

るので、暮らしにくい。

2階の足音がうるさい・大暴れして

いる仲間の声がうるさくて、イライ

ラする。その上住宅街なので、とき

どき近隣の人々にも大迷惑をかける

こともあります。

(3) ホームに入りたい仲間もおります

が、ホームが出来ないので、まだ入

れない。職員もいない。

私の望みは、いつか両親の亡き後、その

実家に戻つて生活したい。修理・工事費な

ど多大な費用がかかるけど、家が壊れない

ように生活をしていく事です。

## 質疑応答

Q、一人暮らしをする時に、困った事はあ  
りますか。(熊本ホーム職員さん)

A、長原・・・ホームを出るとき、家族全

員の反対があったり、もめごとが沢山あ

ったことです。一つづつ話し合いをした

ので、今は解決しています。

Q、ホームは、どこまでが施設の責任と感

じていますか。(埼玉の入所施設職員さ

ん)

A、高木・・・先だつて「はぐるま」の将

来事業計画説明会がありました。その中

では「生涯保障」が謳われています。

「地域で生き生きと暮らす」この事は障害

の有無に関わらず、高齢化社会の課題と

なっています。「ずっといいんだよ」

と自信を持って言うために、私たちの法

人も、どれだけ地域とつながれるか・

どのようなつながりを持っていくかが、

「生涯保障」の鍵となると思います。

(1) ホーム長会議をしています

ホームが十か所に増え、多様な生活が必要になってきているので、ホームの対応も様々になっています。そのような中で、仲間の声は重要な情報を沢山含んでいるので、日々聞き取っていかねばなりません。そこで、ここ数年開催されていなかった仲間ホーム長会議を再開いたしました。月2回、十人のホーム長と仲間事務局三人が集まり、ホームの様子や相談事、などを話し合います。

各ホームから出される現状をみんなで共有し、困っている事は、どのように解決したらよいか考えます。一月の会議のなかで、月曜日の弁当は買弁当の仲間が多くなってきました！と仲間からの報告がありました。家庭の事情の変化を感じているようです。また、親が病気なので、介護をするためホームを休んで自宅にいます。など仲間達の置かれている生活が様々な所で変わって

きていることが、現状の生活から見ることが出来ます。

「仲間の声」から、改善点を見つけたり、将来の展望を考えたり今後、重要な会議になることと思えます。

(2) 就職をした仲間がいます

障害者自立支援法の目玉策として、障害者の雇用の拡充があります。障害者雇用促進法が改正され、就労に至るまでの支援を行う事業が創設されました。

『地域障害者就労支援事業』で川崎市では  
○川崎南部就労援助センター

○中部就労援助センター

○百合丘就労援助センター（北部）

の三か所があります。

そこでは、ハローワークが福祉施設と連携して、個々の障害者に応じた支援計画を策定し、その計画に基づいて就労・職場定着支援を日々行います。

この度「はぐるま」の仲間、百合丘センターを利用して、就労した人がいます。

日中の作業所は退所扱いになり、新たな仕事場に、毎日元気に通勤しています。

ホームは、はぐるまのホームを利用したいとの本人の意向がありますので、生活の母体はホームで、「生活のリズムを崩さない」

「健康管理」「係の仕事」「余暇の過ごし方」等は、変わらず今後も続けていく事になっています。就職しても続かない原因は、生活の乱れから、遅刻が多かったり、悩みなどを話す相手もない、などがあげられていますので、支援センターとホームで、バックアップ体制を引き、支援していくことになりました。

∴就労までの経緯と現状は、詳しく支援センターだよりで、報告をいたします。

お知らせ

生活支援センター職員

宇野 高史職員が二月四日付けで

退職をいたします。

変わりの職員を募集していますが、しばらくは、一人体制になります。